

# FORUM

Vol.15

大阪府立大学  
高等教育開発センターニュース  
「フォーラム」

## 第 15 号

### CONTENTS

巻頭言 ..... 2

大阪府立大学理事(教育研究担当) 安保 正一

コラム ..... 3

大学教員に求められる資質

高等教育開発センター長 新井 隆景

＊読者の声＊

新・教務学生システムについて ..... 4

新任教員FD研修参加報告 ..... 7

編集後記 ..... 8



大阪府立大学  
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

# 巻頭言

● 大阪府立大学理事  
(教育研究担当)

安保正一

MASAKAZU ANPO



## 安保 正一

MASAKAZU ANPO

大阪府立大学理事(教育研究担当)  
地域連携研究機構長  
21世紀科学研究機構長  
学術情報センター長

1975年、本学大学院工学研究科博士課程修了(工学博士)。  
本学工学部助手、講師、助教授を経て、1990年4月に教授。  
2007年4月から2年間、工学研究科長(工学部長)。2009年  
4月から大阪府立大学理事・副学長で現在に至る。

## 文理融合とコミュニケーション力

東日本大震災を機に、我々が誇ってきた先端科学技術に対し、国内のみでなく国際的にも大きな不信を招く事態が生じています。また、不用意な発言で、就任数日後に辞任した大臣のことは記憶に新しく、コミュニケーション力の不足、国際的視野の欠如が、我が国の大きな課題として浮かび上がっているように思います。

海外留学する学生の激減からも、若い世代における国際的視野の欠如は実感できますが、一方、コミュニケーション力の不足とは、どのようなことを指すのか、理解し難いかもしれません。そこで、簡単な事例を一つ挙げてみましょう。

「中国に行ったことはありますか?」と尋ねる友人に「何度もあるけれど、人は多いし、どこも混雑していてね…」と答えたといいます。これでは会話が弾まないどころか、あなたは無意識のうちに友人を傷つけてしまったかもしれません。なぜなら、友人はあなたの訪中経験を聞きたかったのではなく、友人が中国旅行で楽しかったエピソードをあなたと共有したかった、或いは、「今度一緒に行こう」と誘おうとしていたかもしれないのです。勿論、答えは一つではありませんが、この会話の展開を想像することが難しかった方は、コミュニケーション力を磨かねばならないかもしれません。

相手が、どのような背景で、どのような気持ちで、あなたと対話しているのか、相手の立場に立って、相手の本意を汲み取り、思いやりを持って対応するだけで(contextの理解により)、より豊かなコミュニケーションが生まれるでしょう。

コミュニケーション力の向上には、文系と理系の垣根を越えた文理融合による教育が必要と考えられます。本学では、学生のコミュニケーション力の向上を一つの大きな課題とし、平成24年度より「文理融合の現代システム科学域における新しい教育」を開始します。一言で「文理融合」と言いますが、決して容易なことではないと思います。最初は、理系、文系それぞれが互いの要素を少しずつ取り入れ、歩み寄ることから進むことになるでしょう。一方、同時にこれまで理系主導であった「モノづくり」は、安くて均質なモノを大量生産する時代から、個々人のニーズを把握する文系の視点も取り入れた新しいモノづくりが重要となる時代へと変わりはじめています。

人材育成は、大学に課せられた使命です。コミュニケーション力と国際的視野を身に付け、グローバルに活躍できる卒業生を一人でも多く輩出することを目指し、皆さんと一緒に頑張りたいと願っています。

# 大学教員に 求められる 資質



高等教育開発センター長を平成23年4月より拝命した新井隆景です。高等教育開発センターは本学のFD活動を進める役割を担っています。そこで、こ

では、大学教員に求められる資質（能力?）について考えてみたいと思いますが、小生の勝手な意見を述べさせていただき、ご批判、ご意見をいただければと思います。

まず、大学の使命は何なのでしょう。もちろん教育ですが、それだけでしょうか。教育だけであれば、小学校、中学校、高等学校の教員と何ら変わりがないことになります。小中高と決定的に異なる点は、大学の使命に研究が入っているところにあると小生は考えています。すなわち、大学教員の使命は、教育（知の継承）と学問の創造（研究）であると思います（ここでは社会貢献は省きます）。

知の継承と学問の創造では、これら二つは切り離すことができず、学生と教員は共同作業をする必要があると考えます。すなわち、知を継承するためには、継承する人材を育てる必要があります。ただ

単に、知識を教授すればよいというものではないと考えます。学問の創造においても同様で、教員自身が新たな学問を創造すると同時にそれを継承し、発展させる人材を育てる必要があります。

では、このような知の継承と学問の創造ができる人材を育成する能力とはどのようなもののでしょうか。小生は、知識の教授能力（テクニク）だけでは有為な人材は育たない（育てられないではないことに留意）と考えます。少し青臭い言い方をすれば、大学教員の資質としては、教員自身が教員自身の専門分野を愛し、その分野の重要性を説き、未知の分野が広がっていることを語れる能力が必要と考えます。それからもう一つ、忍耐力です。

本学の教員の方々全てがそのような能力を有していると信じます。高等教育開発センターとしては、皆様と協力して、教員のそのような能力を最大限発揮できるような教育システム（環境、仕組み）を考え、実践していくことが必要です。ご協力をお願いします。人材は育てるものではなく育つものと信じます。我々はそれを少し手助けできればと考えています。教員のためのFDにならないように、...

## 新井 隆景

TAKAKAGE ARAI

高等教育開発センター長

1955年生まれ 東北大学大学院工学研究科博士後期課程機械工学専攻修了（工学博士）。東北大学助手、室蘭工業大学助教授を経て、2005年より大阪府立大学大学院工学研究科航空宇宙工学分野教授。2011年度から本学高等教育開発センター長に就任。

## 読者の声

学内のコミュニケーションの充実をはかるため、今後の活動に反映させるため、「読者の声」を掲載することになりました。本誌を読まれてのご意見・ご希望・身近な話題など、皆さまの声を紹介させていただく場とします。ふるってご投稿くださいますよう、お待ちしております。

### 松永秀章（数学系）

工学部2年次の数理共通科目の数学を初めて担当した10年前はFDの存在を知らず、毎回試行錯誤の連続でした。近年は学内でのFDセミナーやピア授業参観をヒントに双方向の授業を意識しています。例えば、わざと間違った説明をしてどこが間違っているのか学生に質問したり、演習の解答を学生に説明させたりしています。また、授業アンケート期間中はWEBでの回答をお願いする一方で、フィードバックを早めるために、演習用紙の余白に感想を書いてもらい、翌週の授業から反映させています。全学的に学士課程における数学力の育成が求められているので、他の教員とも協力しながら数学教育を充実させていきたいです。

### 城田フェリシア（総務人事課）

FORUM誌を読んで、ふと自分の学生時代を思い出しました。誰も答えを知らない疑問と、解決への小さな創意の積み重ね。思い通りにいかず苦しんだりもしたけど、楽しかった。社会に出ても根っこは同じ。なぜ?→どうすれば?を繰り返し課題を解決していく。シンプルな事ですが、未知の問題に身一つで挑んでいけるバイタリティは、大学で得る体験・修練で培われるのではないのでしょうか。学問に「なぜ?」を抱かせるような授業づくりに、先生方がこうも懸命に取り組まれている事とても頼もしく感じます。

高等教育開発センターWebの刊行誌ページに、投稿窓口を掲載しています。ぜひお寄せ下さい。

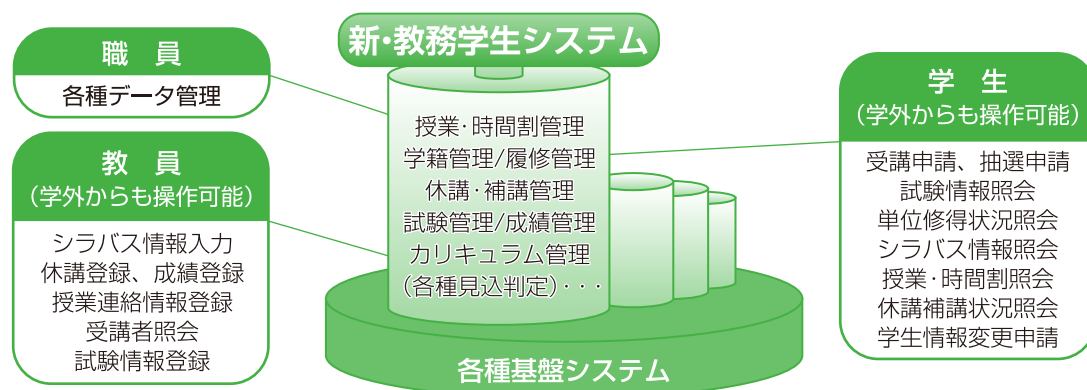
**問題** 府立大学の学生が、「授業等に出る」以外で費やす時間が一番多いのは次のどれでしょう?

1.勉強や宿題 2.部活動や同好会 3.アルバイトや仕事 4.読書（マンガ・雑誌除く） 5.趣味

答えは➡ <http://www.fd.las.osakafu-u.ac.jp/publication/>

# 新・教務学生システムについて

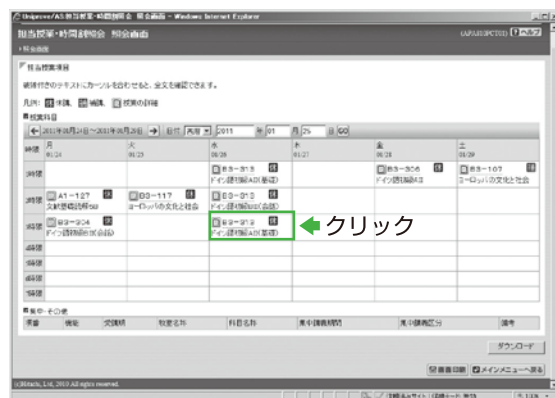
平成23年6月から新・教務学生システムが運用を開始しました。このシステムを通じ、教職員学生が、相互に触発し合って、教育・学習、業務を不断に向上していくことを目指しています。具体的には、学生自身による卒業・進級見込みの確認・教員によるシラバスの作成・成績提出のオンライン化等の効率的な業務支援の実現、そしてユビキタスな学習環境・教育環境の実現のためできる限り学外からのアクセスを可能とする情報環境の構築をおこないました。新・教務学生システムをご活用ください。



## 教務学生システム(教員用)の紹介

### 授業・時間割メニュー

○担当授業・時間割照会  
教員が担当している授業が時間割の形で表示されます。  
担当授業項目画面をクリック

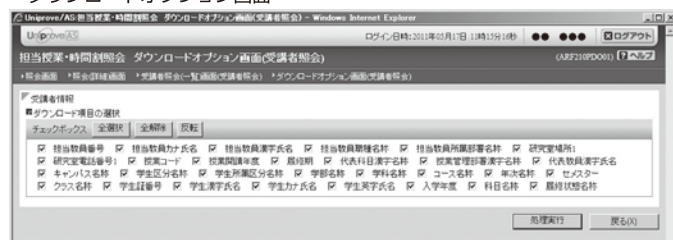


ここから各授業を選択することで、その授業の休講登録・受講者照会・成績登録・授業連絡情報登録の作業ができます。



### 受講者照会

受講者や授業に必要な情報を選択し、出力(テキストファイル・エクセルファイル形式)することができます。  
—ダウンロードオプション画面—



※必要な情報を選択する場合は、一度「全解除」ボタンで選択を外し、選択してください。

もしファイルがダウンロードできないときは、ブラウザの設定が必要です。教員ポータルマニュアル・FAQタブ、教務学生システムにある「FAQ」をご参照ください！





## 休講登録

休講する場合は担当授業を選択し、休講の登録をおこなってください。登録と共に学生への休講コメント入力も可能です。学生にはメールで連絡が届くほか、学生ポータルにお知らせが表示されます。

—新規登録画面—

これらの画面から学生とのコミュニケーションがはかれます。



## 授業連絡情報登録

連絡したい受講生に対して課題提出の指示や面談等の連絡ができます。学生にはメールで連絡が届くほか、学生ポータルにお知らせが表示されます。

## 成績メニュー

### ○成績登録

成績入力の方法を3種類設けています。いずれかの方法により、授業の代表教員が成績を提出してください。

- ①成績をシステム画面で直接入力する方法
- ②各自作成したファイルデータ(学籍番号と評点のセット)をコピー＆ペーストで一括してシステムに入力する方法
- ③登録用のファイルをシステムからダウンロードのうえ、評点を入力し、アップロードする方法

詳細は教員ポータルのマニュアル・FAQタブ、教務学生システムにある「成績登録クイックマニュアル」をご参照ください！



## 試験メニュー

### ○試験情報保守(試験情報の登録)(羽曳野キャンパスは除く)

平成23年度後期より、授業の代表教員が試験について以下の情報入力をしていただくことになります。

- ・試験形態(定期試験、レポート、授業内試験)
- ・教室の変更の有無
- ・試験週の選択
- ・教務、学生への連絡
- ・レポートを選択した場合の書式、条件等の指定

## シラバスメニュー

### ○シラバス情報保守

システムに項目を入力していただくことで、シラバスページを作成します。オフィスアワー、授業目標、授業概要、教科書、参考書、関連科目、時間外の学習、授業計画、成績評価の方法、添付ファイル、参考リンクを入力して、シラバスページの作成をお願いします。また、現行HPで公開されている授業科目概要が、次年度からシラバスとして公開されます。その際システムに入力した情報をもとにHPに公開するため、入力は一発で完了します。

<ご参考（学生の閲覧画面より）>

## 単位修得状況照会メニュー

学生自身が修得した単位を確認し、また進級・卒業見込みを確認することが可能となりました。対象となるカリキュラムがツリーの形で表示され、進級・卒業に必要な単位を確認し、学生自身で今後の最適な履修計画を立てることを支援します。



### 問い合わせ窓口

questions\_kyoumusys  
@ml.osakafu-u.ac.jp  
(内線 2782,2783)

(松室)

以上が新システムの主な機能の概要です。この機能を十分活用できるよう、今後も教育環境の向上を目指していきます。詳しい操作方法については、教員ポータルにアップロードされているマニュアルをご参照ください。また、疑問点などがありましたら、教育推進課教務グループまでご連絡ください。

# 新任教員FD研修参加報告

5月27日（金）午後1時より、平成22年度および23年度の新任教員を対象に、FD研修を開催しました。当日は、「府立大学の教育課程、システムサポート、教務の流れ」「授業を育てる」「府大に入学してくる学生について」「府大を取り巻く教育環境」「学生のメンタルケア」の内容で、高等教育開発センターと学生センターの教職員5名で講演をしました。教職員からの経験を交えた講演と質疑応答に対し、参加者からのアンケートでは「有意義であった」という回答を多数いただきました。

## ●●●●●●●●●● 新任教員FD研修に参加して ●●●●●●●●●●

### 応用生命系

### 青木 考

私にとって新任教員FD研修の中では、「授業を育てる」「府大に入学してくる学生について」の2つの研修テーマが期待を寄せていたものでありました。「授業を育てる」に関しては、現役の先生方が学生さんと双方向コミュニケーションを取りながらの授業を、どう工夫し実施されているかに興味がありました。お話の中で、端末を使ったアンケート収集方法などが提示され、リアルタイムに学生と問題意識共有を図れる方法として参考になりました。「府大に入学してくる学生について」は、まだ学生に向かってザックバランに問いかける信頼関係が成立していないだけに大きな助けになったと思います。説明いただいた府大生像の総論を、今後自分が担当する学生さんの個々のケースで深めていけると楽しみにしております。

最後に、2か月弱自分自身の講義経験を持った後に研修を開催していただけたので、このタイミングも大変ありがたいものでした。

### 高等教育推進部門

### 若林 身歌

昨年10月、本学に赴任して参りました。大学で授業をするようになって今年で6年目。府大は2つめの勤務校です。

「新任教員FD研修？」と半信半疑で参加した研修会でしたが、当日の研修では改めてFDについて考えさせられ、気づかされました。それは、FDの要はやはり教員による主体的な授業改善であり、そのためには何よりも教員自身がFDに付きまとう「やらされている感」を超越し、授業者として計画・実行・評価・改善の授業過程を楽しむことが大切だということです。つまり、教員が授業を楽しみ、授業改善に挑むことでしかFDは進んでいかないのではないかと思います。教員としての第2ステージ、私自身もFDアレルギーを克服し、府大の学生と向き合い、彼らとの授業を楽しむなかで「教育」への洞察を深めていきたいと思っています。

### 人文科学系

### 森岡 次郎

私は昨年度（2010年度）の10月より府大に着任したのですが、今回、新任教員FD研修に参加することによって、あらためて、本学の教務の流れや学生の傾向、府大を取り巻く教育環境などについて理解を深めることが出来ました。とりわけ、星野先生がどのように授業を構想し、計画・工夫されているのかについて（「授業を育てる」）は、とても興味深く聞かせていただきました。

今回の研修で強く感じたことは、GPAや学生からの授業評価やテストのスコアなどの数値は教育活動の結果であって目的ではない、ということです（当たり前すぎるかもしれませんが）。それぞれの教員が熱意を持って授業に挑み、専門分野の（学問の）楽しさや難しさを伝えるための創意工夫をする。その結果が高い数値として表れるに越したことはないのですが、数値を上げるために教育活動を行うのでは本末転倒です。熱意を持って教育の改善に取り組まれている先生方のレクチャーを聴きながら、そのような感想を抱きました。

貴重なお話を聞かせていただいた講師の先生方、準備・運営にあたられた職員の方々には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

詳細は、センターWebページに動画等を掲載しておりますのでご覧下さい。（学内限定）

[http://www.fd.las.osakafu-u.ac.jp/seminar/seminar\\_2011.html](http://www.fd.las.osakafu-u.ac.jp/seminar/seminar_2011.html)

## 編集後記

今年度より、高等教育開発センターは、新井センター長、水鳥副センター長という新しい体制で活動を始めました。このセンターニュース「フォーラム」においても、新しい試みとして、セミナーへの参加者の報告記事や読者の声欄を設けるなど、センタースタッフ以外の方に執筆をお願いするページを多くしていこうと思っています。新規に設けた「読者の声」などにご投稿いただきますようお願い申し上げます。

(高根)

### 大阪府立大学 高等教育開発センター センターニュース『FORUM』

平成23年9月20日発行

発行者 公立大学法人 大阪府立大学  
高等教育推進機構 高等教育開発センター  
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1  
<http://www.fd.las.osakafu-u.ac.jp/>  
印刷所 くすの木印刷  
〒586-0081 大阪府河内長野市緑ヶ丘北町25-21

〈編集委員〉 新井 隆景（センター長） 大木 理 兼田 博 小島 篤博 高根 雅啓 高橋 哲也 谷口 栄一 車 美愛 塚本 民雄  
林 利治 星野 聡孝 松室 光 水鳥 能伸（副センター長） 山口 義久 廣島 はるみ・藤澤 圭子（事務担当）

この冊子は1500冊作成し、1冊あたり48円です。